

ドラッグインフォメーション

2022年4月改訂

販売名	アスコルビン酸「ヨシダ」		製造販売	吉田製薬株式会社	
局方名	日本薬局方 アスコルビン酸				
洋名	Ascorbic Acid		発売年月	1986年9月	
一般名	アスコルビン酸		薬価収載年月	1986年6月	
剤形	散剤		薬価	1g 7.70	健保適用
規制区分	普通薬		日本標準商品分類番号	873140	
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	3140001X1101		YJコード	3140001X1101	
構造式	分子式: C <sub>6</sub> H <sub>8</sub> O <sub>6</sub> 分子量: 176.13		性状	本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、 は無く、酸味がある。 水に溶けやすく、エタノールにやや溶けにくく、 エーテルにほとんど溶けない。	
組成	本品を乾燥したものはL-アスコルビン酸(C <sub>6</sub> H <sub>8</sub> O <sub>6</sub> ) 99.0%以上を含む。				
効能・効果	<p>1) ビタミンC欠乏症の予防及び治療(壊血病、メルレル・バロー病) ビタミンCの需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患、妊産婦、授乳婦、はげしい肉体労働時など)</p> <p>2) 下記疾患のうち、ビタミンCの欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合 毛細管出血(鼻出血、歯肉出血、血尿)。薬物中毒。副腎皮質機能障害。骨折時の骨基質形成・骨癒合促進。肝斑・雀卵斑・炎症後の色素沈着。光線過敏性皮膚炎 なお、2)の効能・効果に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきではない。</p>				
用法・用量	アスコルビン酸として、通常成人1日 50~2,000mg を1~数回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。				
使用上の注意	<p>1. 副作用 消化器: 悪心・嘔吐、下痢等の症状があらわれることがある。</p> <p>2. 高齢者への投与 一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。</p> <p>3. 臨床検査値への影響 1) 各種尿糖検査で、尿糖の検出を妨害することがある。 2) 各種の尿・便潜血反応検査で、偽陽性を呈することがある。</p>				
薬理作用	<p>ビタミンCの1日の必要量は、年齢、体重、環境、労働条件などによって異なるが 50~200mg といわれ、食餌から日常摂取されている。しかし種々の原因で摂取量や吸収量が減少したり、消費が増大したりして生体内に不足してくると、種々の疾患や症状を引き起こし、一般に出血傾向の増大、抗体産生能や創傷治癒能の低下などを起こす。したがって本品の投与はこれらの疾患や症状に効果がある。アスコルビン酸の生体内における意義や作用については多くの研究があり、コラーゲン生成への関与、出血傾向の改善、副腎皮質機能への関与、メラニン色素生成抑制などが報告され、次第に明らかにされつつある。 (体内薬物動態) 腸管より容易に吸収される。吸収後血中量は増加し、通常血漿及び血球の両者に存在する。白血球、血小板中で特に高い。体内に広く分布し、最高濃度は腺組織、最低は筋肉及び貯蔵脂肪中である。</p>				
取扱上の注意	<p>貯法: 遮光した気密容器</p> <p>配合変化: 本品は還元性、キレート性が強いので配合変化を起こしやすく、その際本品の効力は低下する。強アルカリ溶液、酸化剤、重金属塩、制酸剤などの混合は注意を要する。</p> <p>包装単位: 500g</p> <p>使用期限: 3年</p>				
文献請求先	吉田製薬株式会社 学術部 東京都中野区中央5-1-10				